２．大阪商業大学における起業教育の取組み

大阪商業大学　副学長・リエゾンセンター長　南方建明

大阪商業大学は、日本を代表する中小企業の集積地である東大阪市において、「世に役立つ人物の養成」を建学の理念に掲げ、「実学教育」を伝統としてまいりました。

今日、ＩＴ革命やグローバリゼーションがすすむなかで産業構造が変化し、地域の活性化が喫緊の課題となっています。このような時代において、新しい「価値」を創造し、地域社会をリードできる「起業家精神（ベンチャースピリッツ）」あふれる人材の育成が、これまで以上に求められています。

大阪商業大学では、このような社会的要請に応えるために1998年度より「起業教育」に本格的に取り組んできました。本学における「起業教育」の目標は、必ずしも起業家を育成するのではなく、起業家精神の涵養と起業家的な資質・能力を育成することです。そして、企業に就職したとしても、自分自身で決断して行動できる人材、またチームを率いてそのリーダーとしてプロジェクトをすすめられる人材を育成することを目標としております。具体的には、現実の社会から学ぶことにより、社会のさまざまな問題を発見し、問題の解決策を考え、解決策を実際に遂行していく能力（社会的問題解決能力）を育成したいと考えております。

「現実の社会から学ぶ」ことについては、地域の起業家など第一線の経営者を招いて現実の経営問題について講義してもらう「地域社会と中小企業」「地域産業振興論」を開講しています。活力ある中小企業が多数集積している東大阪市に立地する大学という特色を活かして、理論だけではなく経営者の生の声を学生たちに伝えたいと始めたものです。

「社会のさまざまな問題を発見し、問題の解決策を考える」ことについては、新しい商品・サービスやビジネスモデルのアイディアを競う「ビジネス・アイディアコンテスト」を実施しています。

さらに、「問題の解決策を実際に遂行していく」ことについては、自ら考えた商品やサービス、あるいは新しいビジネスモデルを世に問うために起

業しようとする学生やOB、広く社会人向けに、インキュベーション施設「大商大アントレ・ラボ」を設置し、またそれらの起業家に出資する「ベンチャー投資制度」を設けています。

そして、「現実の社会から学び、社会のさまざまな問題を発見し、問題の解決策を考え、解決策を実際に遂行していく」という一連の活動の場（フィールド）を地域のまちづくり団体、企業、NPOなどに求める「フィールドワークゼミ」に力を入れております。

また、教育課程においても、学部には4年間継続して起業教育に特化して教育する特別コース「大阪商業大学ビジネス・パイオニアコース（OBP）コース」、さらに大学院修士課程として、新しいビジネスモデルの創造とその継続的革新を担う人材を育成する「地域政策学研究科経営革新専攻」を設置しています。

このように本学では、さまざまな角度から学生の起業家精神と起業家的資質・能力を育成する起業教育に力を入れておりますが、さらに高大接続教育として、本学と高等学校が連携して高校生を対象とした起業教育をすすめています。具体的には、本学教員と高校教員が起業教育に関する情報を交換し、起業教育の方法論について研究していく「起業教育研究会」を主催しております。起業教育研究会には、普通科、商業科、総合科、農業科、工業科などさまざまな学科、またさまざまな専門分野の先生方が参加され、起業教育について議論し、その成果を発信してきました。また、高校生を対象として新しい商品やサービスのアイディアを競う「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」を毎日新聞社と共催で実施しています。

起業教育の実践にあたっては、それぞれの教員が、どのような人材を育てたいとかという、しっかりとした理念をもつことが重要です。本学においては、学生一人ひとりに自らの能力を活かして社会にどのような貢献ができるかを考えてもらうキッカケとなればと思います。さらに、フィールドワークゼミ等の活動を通して、学生の行動力・創造力および本学に蓄積された知的資産を地域に還元することによって、地域の活性化に貢献していきたいと考えております。